

〔書簡〕 昭和三十四年十一月二十七日 消印
中谷 泰 事務所宛 岡鹿之助書簡

事務所会議での集りでの寄せ書き、ありがたくいただきました。なるほどもう十二月、いつも今頃、来春の会議でしたね。皆さん御苦労様でございます。

久しぶりで、こうして皆さんから話しかけると、こちらも仲間入りしてガヤ／＼やっている気持ちになります。そして会の運営の並々でないことを今更のように思ひます。来年の展覧会が済んだら事務所は容赦してくれといふ中谷さんの申し分も、もつともだと思ふと同時に、先々が心配でもあります。しかし、きつとよい候補者が予定されているでしょうからおまかせします。来春までに帰へる予定で来ましたが、少しのびそうです。まったく絵が描けなくなつて了つて、ひどい数ヶ月をすごしました。時に息のつまる思ひ、ひどく疲れて了つて、いけないことに私の住っている家にはやたらに鏡があるので、憔悴してゆく自分の顔といや応なしに面会するのが不愉快でした。

ゆつくりお便りする余裕も失ひ、せっかく心にかけて、展覧会のスナツプや、中谷さんからのよいお手紙をいただき乍ら失礼を重ねに重ねていました。疲れているといふニュースがそちらへ入つたといふのは、残念乍ら本当です。昨日も村山(密)君と話したのですが、みつともなくて人にも話せません。しかし、やっとこの頃、元気をとりもどして、ボツ／＼描い

ています。御安心下さい。

清宮(質文)さんお目出とう御座いました。清宮さんは、「遂に陥落結婚しました。岡同様に頑張ってきたが残念」なんて書いていられるが、なにが残念なもんか。そんなに頑張ってきたのに、それにも拘わらず……といふ事は並大抵ではありませんな、御馳走さまです。どうぞお手柔かに願ひたい。三井(永一)さん、瀬木(慎一)にあはれた由、田舎住ひでたまにパリに出たとたんに瀬木さんにお会ひしたわけで、ゆつくりお話しする機を失ひました。宜しくお伝へ下さい。木村(莊八)先生の一周忌と伺ひ、その早いことに驚きます。遺稿その他の整理をなつかしく続けていられる事でしょうね。先日、今泉(篤男)さんに会つたとき、「墨東綺譚」だけは美術館に無事に納つたことを知り、実にうれしい思ひでした。《パンの会》も是非とも機を狙つて下さい。志村(一男)さんは帰国すると、すぐに事務所に掴まつちまつて仰天されたことでしょう。誰しも外国から帰へると一年ぐらいはしづかにしていたい所ですが、とにかく春陽会はウムを云はせませんからね。全く済みませんでした。しかし、お陰様で中谷さん大助りしていられるようです。志村さんも荒木(市三)さんも例の如く地味なお仕事に没頭されていられる事と思ひます。

フランスと言わず非具象は、いま世界的の傾向のように考へます。パリではそれに抗して、新具象が起つていますけれど、一向にこちらを打つてくる新しい意味をはらんだ仕事には、まだお目にかかりません。どういふことになりますかな。こちらの近代美術館にはよく出かけますが、非具象

の絵も、ガタピシしたものが多くて、いく度も見ている中に、実に多くの仕事は私の眼から落ちてゆきます。

(清宮) 質文

(荒木) 市三

(三井) 永一

(中谷) 泰 様

私は私なりに、今日の意義を仕事の中に生かしたく希っているわけですが、たやすい事ではないのです。村山君もよくやっています。仕事の苦悩もなか／＼のようですが、お互ひにこれはしょうがない。どんなことに二人がなりますかな。お笑ひ種になるかもしれません。そんなことになったら、かんべんして下さい。志村さんの言はれるように、マロニエの実が落ちる頃になりましたよ。毎朝、霧が多い。パリ独得の灰色の空がつづいていますが、気候は温暖です。

フランス人の仲間もせつせと仕事に夢中です。みんな勉強しています。みんなやっています。めい／＼勝手な仕事をね。——皆さんの健闘を祈り上げます。

事務所会議から少しズレますが、南大路さんの健康はどうでしょうか。奥さんが胃の手術で入院されたらしいニュースが数日前に入って心配しています。南大路さんも心痛多いことと思ふのです。南大路さんからも、いつぞや、中谷(泰)さんと同時にお便りいただいたのに(米山博士令嬢に託されたもの)御無沙汰して、どうか宜しくお伝へ下さい。会の皆さんにも宜しく。

十一月二十六日 パリ

鹿之助

1954 27 November

昭和 34 年（1959 年）11 月 27 日 消印 岡鹿之助→中谷泰事務所